

伊勢原市第5次総合計画 後期基本計画 施策評価委員会
【第1分科会 第4回会議】 会議録

〔期 間〕 令和3年2月4日(木)～2月17日(水)

〔方 法〕 書面開催

〔出席者〕

〈委員〉

妻 鹿 ふみ子

田 中 麻由美

山 川 勝 久

宮 崎 清

能 條 芳 夫

〔内 容〕

- 1 施策の評価について ※ 意見、評価は別紙のとおり
施策14：みんなで取り組む地域防災力の強化
施策15：いざという時の危機対応力の強化
施策16：被害を最小限に抑える減災対策の推進
施策17：地域とともに取り組む防犯対策の推進
施策18：迅速で適切な消防・救急体制の強化
施策19：人権尊重・男女共同参画社会の推進
施策20：平和と多文化共生社会の推進
- 2 リーディングプロジェクトに対する意見について ※ 意見は別紙のとおり
○地域資源等を活用した市民の健康寿命延伸プロジェクト
○未来につなげる子育て環境づくりプロジェクト

施策		14：みんなで取り組む地域防災力の強化					分科会の評価
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					
		委員1	委員2	委員3	委員4	委員5	
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	B	B	B	B	B	B
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	B	B	B	B	B	B
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	C	C		B	B	C
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	A	B	A	B	A	A
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	B	B	B	B	B	B

<p>施策に対する 総合的な評価</p>	<p>コロナ禍において、予定通りの事業推進が困難であったことは理解できるが、来年度以降は防災訓練の実施率を高めること、自主防災リーダー養成研修会を実施し、参加すべき人が参加できるように手立てを講じること、防災アドバイザー制度を機能させることが必要ではないだろうか。災害が相次いでおり、市民の防災意識は高まっていると考えられるので、それに応える施策を打ち出し、市民の参加ができるシステムを構築することが求められる。避難所運営についても先進地を視察する等の取り組みが求められる。一律中止ではなく、感染拡大に配慮しつつも防災訓練や、自主防災会の機能強化を工夫しつつ進めていくことを求めたい。</p>	<p>コロナ禍だから防災訓練は未開催で良いのでしょうか？災害はいつ起きるかわからないので、どんな状況であっても災害が起きたらどう行動をするべきなのか周知し、市民が常にイメージできるようにする必要がありますのではないのでしょうか？</p> <p>訓練が実行できないのなら具体的な訓練方法を市民にわかりやすく提示していただきたい。</p> <p>訓練の規模を縮小してでも実際に訓練する機会がほしい。</p>	<p>①令和元年度の台風時の市民の実際の避難状況を十分に検証し、避難所の場所やそのあり方、市職員の役割も含めた現実的な非難所の運営方法、そして非難所に必要な資材等の充実等に生かしてほしい。</p> <p>②防災訓練等はこのコロナ禍での状況の中、開催は厳しかったが、こうした状況の中でも自然災害はいつ起こるかわかりません。今、起こる可能性も当然想定できます。上記①で記載したことも関連しますが、台風時の経験も十分に検証しての今後の避難訓練や防災訓練の内容の充実を望んでいます。</p> <p>③防災体制は、各地区の災害特性に応じた防災行動が適切だと思います。その点では、総合防災訓練の見直しは正しいと考えます。今後も各地区の実態に応じた防災体制のあり方を行政がサポートしながら地域住民の防災意識の向上とともに各地区の独自の防災行動の計画及び実践に期待したい。</p>	<p>自主防災会活動を支援する防災アドバイザー制度について多いに期待するが、その実施速度が遅いように思う、早急に目標の10人の任命を望む。</p> <p>コロナ禍において人が密集する訓練が不可能であるが、訓練を重ねることにより有事の時に役に立つことから、次期計画では内容を拡大することなく、訓練・研修の機会を増やすことを望む。</p> <p>長年研修を受講する防災リーダーがマンネリへおちいらないように表彰制度を検討したい。</p>	<p>今後予想される大規模な地震や風水害のことを考えると、災害に対応できる郷土にしていく必要がある。予想される災害に対して市民・家庭・地域・市（行政）で対応する仕方や前もって準備しておく物など、対応する意識を高めたい。</p> <p>ここ数年、強い台風による風水害に見舞われている。特に考えられない降水量があり、市内の2級河川の氾濫や下水道から吹き出る雨水による浸水が見られるので、風水害に対応する訓練や防災対策についての計画を進めてほしい。</p> <p>地震による建物の倒壊や地震の後の大雨による土砂災害など過去に大きな被害があった。そうした事実と災害に対応する知識等の情報を繰り返し市民に提供していくことも大事である。</p>
--------------------------	--	---	--	--	--

施策		15：いざという時の危機対応力の強化					
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					分科会の評価
		委員1	委員2	委員3	委員4	委員5	
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	B	A	A	A	B	A
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	A	B	B	B	B	B
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	B	B	B	B	B	B
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	A	A	A	A	A	A
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	A	B	B	B	B	B

<p>施策に対する 総合的な評価</p>	<p>全般的には限られた予算内での危機対応が適切に行われていると感じた。しかしながら、災害が頻発し、被害が深刻化する昨今の傾向を見ると、さらなる対応強化が必要だと思われる。 防災備蓄推進事業について、指標としてあがっているのは「マンホールトイレの整備基数」だけであるが、事業の説明の中では、防災資機材などの備蓄を強化し、市中央部に大型の防災備蓄倉庫を整備する、との記載がある。進捗状況がC評価になっているが、達成評価はAとなっており、A評価はマンホールトイレの整備で判断し、進捗状況がCであるのは公的備蓄品の平均備蓄率が目標に届いていない、ということなのだろうか。今後の整備計画はどのようになっているのか。</p>	<p>市民にはわかりにくい施策ですが中央備蓄倉庫の整備や公園整備などみえないところで着実に防災機能が向上している。</p>	<p>①大規模地震災害を想定し、避難者への迅速な支援のために、中央備蓄倉庫の整備や公的備蓄の推進また他県からの救援物資の授援体制の構築については評価できます。 ②上記①に関連して、交通道路網の寸断も予想される中での市内各地の災害地区への不足の救援物資運搬や人的救援の体制等が心配されます。それについては、どのような対応を考えていられるかお聞きしたい。 ③災害時に避難者にとって切実な問題の一つであるトイレの確保は、非常に重要と考えます。マンホールトイレの整備については、今後も引き続き計画的な増設を望みます。</p>	<p>防災公園設置と協定事業者参加率・公的備蓄品平均備蓄率ともに当初値より約20%達成しているところから達成状況を高く評価する。 社会全体の傾向として公園等オープンスペースの災害時利用は有効であり、当施策もその方向に沿って推進している点を評価する。また、中央備蓄倉庫設置に合わせて整備計画を策定、受援体制を構築している点も高く評価する。</p>	<p>防災備蓄を整えた公園整備、災害時協力の協定数とも多くなってきていることは、激甚化する自然災害に対応する力を高めることになる。 防災に対応する資機材・備蓄品は必要な物である。資機材の機能の向上や多様な利用者の利便性等を考慮して整備計画を早期に策定して、資機材・備蓄品の更新を計画的に進めて危機対応力の強化に努めてほしい。</p>
--------------------------	---	---	--	--	--

施策		16：被害を最小限に抑える減災対策の推進					
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					分科会の評価
		委員1	委員2	委員3	委員4	委員5	
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	B	B	B	B	B	B
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	B	B	A	B	A	B
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	B	B	A	B	A	B
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	A	A	A	B	A	A
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	A	B	B	B	A	A

<p>施策に対する 総合的な評価</p>	<p>減災対策の推進の成果を測る指標が公共下水道汚水管の耐震化率、土砂災害・浸水対策訓練の参加者数だけでよいのだろうか。被害がもたらす影響を考えると、木造住宅耐震化事業の進捗を指標に加えるべきではないか。 施策推進上の課題として適切にとらえられているが、減災対策としては、耐震診断と耐震改修を利用しやすい制度にする必要があるのではないか。伊勢原の人口規模から考えて、補助件数があまりにも少ないのではないだろうか。住宅に加えて倒壊の危険性のあるブロック塀の把握なども必要である。 補助金の関係で、市独自にできることには限りがあるだろうが、防災意識の向上や訓練の実施など、予算を書けなくてもできる事業に積極的に取り組むべきではないだろうか。</p>	<p>コロナ禍のため防災訓練は未開催ではないのでしょうか？ ホームページや広報誌で周知するだけでなく、規模を縮小してでも訓練は必要ではないでしょうか。 文章で伝えるのと実際に行動してみるのちがう。 大がかりな訓練よりも、これだけ知っておくべき訓練が必要なのでは？</p>	<p>①木造住宅耐震化促進事業については、本市のHPや広報紙の掲載等の効果的な普及啓発活動が行われた結果、市民の耐震診断等の補助制度活用件数も増加し、その効果が出ていると評価できます。 ②地域住民が様々な災害特性に応じた十分な防災知識を備え、災害時に個々が地域住民と協力しながら適切な避難行動を可能にする必要があります。そのためにも行政としては、さらなる計画的な災害に強い公共下水道の整備や、地域の災害特性に応じた各地域の防災・避難訓練等の充実が望まれます。</p>	<p>減災対策の施策として、木造住宅・下水・災害訓練の3部門をまとめて評価することは施策の内容が異なるため非常に難しい。評価も中間を選択せざるを得ない結果になった。 個々の部門において、それぞれ目標に向けて良好に推進していることが理解できた。</p>	<p>個人になって防災を考えると、生活する地域でどのような災害が想定されているのか予備知識が必要になる。ハザードマップ等の防災の情報が身近にあると地域での訓練や日常生活の中で防災についての意識が高められるだろう。 台風や大雨で激増した降水量が予想されるが、市内を流れる2級河川には川床や土手に雑草（大きい）や雑木がよく見られる。川床や土手の整備をしないと激増した流水量のときに堤防の決壊や氾濫の起こる可能性がある。公共施設や病院等への被害が予想されるので、河川の環境整備も計画的に進める必要がある。</p>
--------------------------	--	---	---	---	---

施策		17：地域とともに取り組む防犯対策の推進						
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					分科会の評価	
		委員1	委員2	委員3	委員4	委員5		
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	A	A	A	A	B	A	
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	A	A	A	A	A	A	
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	B	B	B	B	B	B	
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	A	A	A	B	A	A	
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	B	B	B	B	B	B	

施策に対する 総合的な評価	<p>施策を取り巻く環境変化や施策を推進するにあたっての課題は的確に捉えられており、評価できる。 達成状況を測る主な指標が刑法犯認知の件数だけでよいのか。昨今の状況を鑑みると、特殊詐欺被害の抑止、防止といった点からも施策を図る必要はないのか。空き家対策については、特定空き家等は発生しなかったとあるが、空き家自体は増加しているという認識が示されており、今後総合的な施策を進めてほしい。</p>	<p>安全で安心なまちづくりに期待する。 特殊詐欺の被害の対処等、特に注意すべき点は、高齢者を含め全ての人が理解しているのでしょうか？ くらし安心メールの登録件数が伸び悩んでいる一なぜ？ 空き家が今後、増加していくと予想されているが、そのような利活用を検討しているのでしょうか？ 消防署の施設数が少ないのでは？</p>	<p>①防犯対策の有効な手段である「防犯カメラ」については、その必要性を市民も十分認識している。地域性によっても違うと思いますが、本市の防犯カメラの設置状況は他市町村に比べてどのような状況なのでしょうか？数が多ければよいという訳では無いが、犯罪多発地域や防犯上必要な場所には、重点的に設置をしていく必要があると考えます。 ②やはり、防犯カメラとLED防犯灯の増設による効果は、犯罪抑止力はもちろん市民が安心して生活できる防犯環境を整えます。特に防犯カメラは、犯罪発生後の捜査等にも大変有効です。引き続き、積極的な設置が必要と考えます。 ③「いせはらくらし安心メール」については、その有効性や利点について、市民の声をさらに吸い上げながら内容の充実を図りながら、登録者の増加・拡大を図っていく取組みが望まれます。</p>	<p>警察署の対策と地域の防犯パトロール等により犯罪の抑止力を維持して認知件数減少、防犯の武器となる防犯カメラと防犯灯増設。住民の防犯意識啓発手段としてのくらし安心メールの利用者増及び適切な空き家把握の実施から全体的評価は高い。 警察署の対策が充実しているところから、施策の方向性は現状維持の推進がしている。</p>	<p>市内の刑法犯認知件数が減少傾向になってきたことは安全になってきたと落ち着くことができるが、還付金詐欺の件数が減らないのは残念である。被害者は大事にしている財産を取られ、生活に困るだろう。いろいろな方法で防犯を呼びかけてほしい。 防犯カメラ、防犯灯、街灯の設置は犯罪や事故防止につながると思われる。ただ人の行動を注意して見ているという面もあり、地域の実情に促して防犯環境を築いていきたい。地域自治会の防犯活動が継続的にできる支援が望まれる。 空き家になってしまったのかと思われる家を見ることがある。空き家は放置しない、できないという取り組みをすることが大切である。</p>
--------------------------	--	---	--	--	--

施策		18：迅速で適切な消防・救急体制の強化						
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					分科会の評価	
		委員1	委員2	委員3	委員4	委員5		
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	A	A	A	A	B	A	
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	B	B	A	B	A	B	
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	B	B	A	B	B	B	
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	A	A	A	B	A	B	
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	B	B	B	B	B	B	

<p>施策に対する 総合的な評価</p>	<p>施策の成果を測る指標が「消防水利の充足率」だけであるので、ここだけをみれば指標は達成されたといえるが、新東名対応も含めた消防カアップについては、施設整備に加えて人材の確保も求められるのではないか。 消防、救急の体制は、一自治体だけではできない点も多いが、県や関係機関との協議は積極的に進められているのか。市民の要望も高いことから、情報開示が求められるのではないか。</p>	<p>広域幹線道路対応救助資機材整備事業の進捗状況が「C」というのが気になると思いますが、事業内容は施策の目的にそって順調にすすめられているようです。</p>	<p>①新東名高速道路の全面開通に伴って、想定されるトンネル災害対応機材の整備と事故等による消防・救急需要への対応については、早急に対応できるよう準備する必要があると思います。 ②消防水利施設整備については、計画通り消防水利の脆弱地域の解消が進んでいる点は、評価できます。 ③消防署本署庁舎の老朽化と耐震性が懸念されます。財政的な優先順位が当然ありますが、大規模地震で倒壊などとなったらそれこそ災害対応どころではありませんので、できる限りの優先的な整備が必要と考えます。</p>	<p>達成状況は施策当初から水利のみ、この水利に限定した達成の評価は高い。 当施策の事業構成は水利に加え広域幹線救助資材整備・消防庁舎整備であり水利以外の事業の評価は芳しくない。 環境変化及び施策推進上の課題の捉え方は良いが、消防庁舎耐震性確保に関する緊迫感が不足している。</p>	<p>消防水利施設の整備が計画に沿って設置が進められていることは安心できる。 新東名、新型コロナウイルス、消防庁舎の施設更新と新しい状況への対応整備の整備、安全を確保する訓練と取り組みは厳しいが、将来に向けて計画的に、かつ現在をも考えた地道な対策を進めてほしい。</p>
--------------------------	---	---	---	---	---

施策		19：人権尊重・男女共同参画社会の推進					
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					分科会の評価
		委員1	委員2	委員3	委員4	委員5	
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	B	B	B	B	B	B
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	A	B	A	B	A	A
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	A	B	A	A	A	A
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	A	A	A	A	A	A
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	B	B	B	B	B	B

<p>施策に対する 総合的な評価</p>	<p>人権尊重、男女共同参画社会はともすれば啓発事業を実施して、そこへの一定の参加人数があれば成果があがったとされる傾向にあるが、一方通行の啓発事業だけでなく、少人数で話し合うなどの工夫が必要である。オンラインへと切り替えていくことが示唆されているが、オンラインであればより一層工夫を重ねることが必要である。DVや虐待については課題は的確にとらえられており、今後の施策の方向性も了解できるものであるが、実施回数や参加者数だけで目標達成とせず、ニーズにどれだけ応えられているかをみることで、加えて制度や対象者による縦割りの弊害がないようにつとめることを、確認していただきたい。</p>	<p>虐待やDVの状況を判断するのは難しい。加害者、被害者、本人の自覚がないことも多い。誰も見ていない所で起こったらどうするのか？特に未成年の場合は判断するのが難しいのではないのでしょうか？</p> <p>具体的な事象を公開して、未然に防止することはできないのだろうか？</p> <p>男性の視点に女性の視点を加えて理解してもらえらるともっといろいろな解決策が検討できるのではないのでしょうか？</p>	<p>①質問ですが、資料に一通り目を通しましたが、現在市に設置されている各審議会の種類とそれぞれの女性登用率の様子がわかりませんでした。</p> <p>②上記①の女性登用率については、これまでも様々な状況や経緯もあろうかと推測しますが、男女がほぼ半々の委員で構成された審議会での活発で前向きな意見交換がなされることが自然で望ましいと考えます。最近の東京五輪・パラリンピック組織委員会会長による女性蔑視発言も世界的な問題となるような状況もふまえて、今後伊勢原市としても、多くの活躍できる女性委員が登用される環境が自然で当たり前になることを望んでいます。</p> <p>③このコロナ禍での市民生活において、潜在的なものまで含めて虐待やDVの増加は、十分予想されます。ホームページや広報、ネットワーク協議会等を通しての相談窓口の周知を繰り返し徹底し、相談体制の強化が必要と考えます。</p> <p>④虐待やDVの未然防止と早期発見・対応は最優先と考えます。さらに、対応後の被害者への支援については、再発の可能性を十分に視野に入れた継続的な支援体制を構築する必要もあると考えます。</p>	<p>達成状況は審議会への女性登用がわずかに減少、コロナ禍での事業中止等による参加者数の減少もあり高い評価はできません。</p> <p>市民意識の繁栄は重要度は平均値より僅かに下方であるが満足度とともに上昇していることから高く評価した。</p> <p>課題の捉え方は当施策当初にないコロナ禍での生活環境の変化を確実にしかも重要と捉え、今後に反映させることから高く評価した。</p>	<p>男女共同参画をもっと強調しなければならぬと思われる事案が見られる。男女共同参画の意識啓発を更に図り、審議会等では男女同数の委員で構成したり、日常生活の場面でも対等のパートナーとして共に行動できたりする姿を求めていきたい。</p> <p>子どもを育てる際にしつけをしているとする仕方が虐待になってしまうことがある。保護者が子育てをする時、上手にいかない不安や疑問が生じる。そうなった時に相談できたり支援を受けたりできれば虐待に至るような事例が減少できるだろう。困った時に相談できる支援が受けられることを常に発信し、必ず対応できるように努力してほしい。またDVも同じように進める必要がある。</p>
---------------------------------	---	---	--	--	--

施策		20：平和と多文化共生社会の推進					
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					分科会の評価
		委員1	委員2	委員3	委員4	委員5	
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	B	B	A	B	B	B
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	C	B	A	A	A	B
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	B	B	B	B	B	B
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	B	A	B	B	A	B
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	B	B	B	B	B	B

<p>施策に対する総合的な評価</p>	<p>外国籍住民にかかわる施策については、多言語化対応や日本語教室や通訳対応にとどまらず、教育、福祉の保障、就労をめぐる課題把握など多岐に及ぶと考えられるので、事業構成がこれだけでは不十分ではないか。指標の達成状況も、交流活動の参加人数だけでははかれないのではないだろうか。総合的な生活支援の視点も必要である。平成30年の交流事業については、十分な情報提供がなく、参加することがかなわなかったとの声を当事者からうかがっている。増加している外国籍住民の状況やニーズの把握を行うことが必要ではないか。各課の外国籍住民への対応も十分とはいえない。複数の担当課の連携が必要ではないだろうか。平和都市宣言推進事業についての課題の捉え方は了解できるものである。平和についての市民の関心を高められるような施策の工夫をしていただきたい。</p>	<p>戦争を知らない私たちが戦争を体験した高齢者から話を聞く機会がほしい。</p> <p>外国籍市民の方々と会話を楽しめるスペースがほしい。ゴミの出し方のルールを伝えたい。(日本語を外国語に置き換えると内容が上手く伝わらないことがある)</p>	<p>①個人的な意見を述べさせていただくと、事業は別ですが、平和と多文化共生社会の推進という括りならば、世界の平和イコール日本の平和でもあるという考え方もできると思います。伊勢原市に限らず、日本人の戦争体験者は確実に減少しています。むしろ増加している外国籍市民にも目を向けた平和というものも包括した施策推進も考えてもいいたくないかと思いました。国籍によっては、母国で戦争体験や様々な悲惨な体験をされた方やそれを身近で感じてきたり、平和の尊さを肌で感じている外国籍市民もいるのではないかと勝手に推測しています。</p> <p>②質問になりますが、伊勢原市としては、延期された東京五輪・パラリンピック大会に合わせた取組みとしては、具体的には特に関連した施策は予定していなかったのでしょうか？</p> <p>③市民の要望・意見に外国籍市民との交流の場を作ることが必要という声がありました。現在、伊勢原市内の各小中学校にも多数の外国籍児童・生徒が在籍していますが、家庭によっては担任とその保護者との意思疎通や会話が困難な状況もあると聞いています。そうした場合、担任(学校)とその保護者の間に外国籍児童・生徒が入って、コミュニケーション(通訳も含めて)を可能にしていることもあるようです。そのような状況も考慮すると、外国籍市民との交流には児童・生徒も巻き込んでの(含めての)工夫したイベント等の開催も効果的であるかもしれません。</p>	<p>達成状況は、コロナ禍における外国籍市民との交流活動の見送りがあり一年間のブランクが生じているため高い評価はできない。</p> <p>構成については、これからの時代を担う中学生に対する戦争の悲惨さの啓発と交流活動見送りであるがニーズ等把握・情報提供等を行うなど評価は高い。</p> <p>捉え方は、戦後75年高齢社会とは言え戦争の悲惨さを語る方が徐々に減少しているなどを捉え、また、外国籍の増加から適切な支援策を講じる問題意識捉えている。支援策の具体を知りたかった。</p> <p>これからは、戦争の知らない世代が次世代につたえる時代となる。蓄積した映像、史料を体系整理して活用するため、外国籍市民とともに暮らすことは平和に繋がることから、当施策を継続されたい。</p>	<p>新型コロナウイルス流行に伴ない、交流事業が実施できなかったことは残念で、流行事業が再開できるとよい。それまでの期間、多国籍市民が生活していく上で困ったことを相談できる、生活に必要な情報が受け取れるような窓口が望まれる。</p> <p>平和に暮らせる今、かつて市民の人々が経験した悲惨な出来事は思い出されなくなってしまう。悲惨な出来事の中で、その大変な状態でのように暮らし、どのようにして抜け出してきたのか考えることも大切である。そうすることが今の生活の中で起きる問題の解決への一助となることもあるだろう。記録を残しつつでも活用できるようにしたい。</p>	
---------------------	--	--	---	---	--	--

リーディングプロジェクト1「地域資源等を活用した市民の健康寿命延伸プロジェクト」

委員 1	<p>本プロジェクトは「寿命の延伸」として成果がわかりやすく表れるため、市民のモチベーションをキープさせることに取り組みやすいプロジェクトだと考えられる。</p> <p>①については、東海大学の学生がフィールドワークの授業の一環としてかかわるしくみをつくっており、学生にとっては高齢者と円滑なコミュニケーションをとるためにはどのような声かけが良いのかなどを学ぶ良い機会となっている。50歳代以下の若い世代にも、健康意識を持ってもらい、健康診査や検診の受診につながるようつとめていただきたい。</p> <p>②については、子どもたちを巻き込んでおり、また多世代交流にもなっており、素晴らしいと思う。</p> <p>③については、東海大学の教員として「統合型地域スポーツクラブ」のお手伝いをしたこともあり、官学協働の取組みとして評価できると考える。</p> <p>④についても、社協の活動などを通じて、その有効性が認められる。</p> <p>以上のように、既に取り組まれている事業については一定の成果を上げられ、評価できるが、これらのプロジェクトが今後も一定の成果を上げるには、市民の協力者の存在が欠かせない。60歳代以下の市民の参画を得るための方法を検討する必要がある。</p>
委員 2	<p>がん検診の受診率が伸び悩んでいる →日程と会場のくみあわせが片寄っているのでは？ どこの会場でも保育ボランティアがいれば子育て中の若いママさんたちも受診しやすいのではないのでしょうか？ ダイヤモンドやミニサロンに参加している高齢者はとてもいきいきしている。 一人暮らしの高齢者等が積極的に参加したくなるような取組をお願いしたい。 4つの柱による取組を今後も継続していただきたい。</p>
委員 3	<p>市民の健康意識の着実な高まり、及び健康寿命の延伸はとても喜ばしいことであり、これまでの本プロジェクトの成果が表れていると感じています。そのための一つである市民の健康を支える「食育」は、若い世代からの意識付けが極めて重要です。そのためにも小・中・高校生を対象とした料理コンテストや教室の取組みはさらなる工夫や改善を加えながら食と健康への関心を高めていくことが望まれます。また、私も先日高部屋小学校で、キムチを使ったとても美味しい給食を試食する機会がありました。子ども達も、学校給食にはとても関心が高いようで、学校長からも生姜焼きのメニュー等が人気だとお聞きました。今後も中学校給食の導入も計画される中で、さらなる食育指導の充実を期待しています。また、「運動」については、高齢者が無理なく健康を維持できるような運動を楽しめる高齢者エアロビクス（ダイヤモンド）の取組みは「生きがいづくり」にもつながり高く評価できます。健康・食育に関する教育・相談への参加数の増加は、市民の健康への意識の高まりを示すものとして評価できます。今後は、市民の要望も考慮しながら、がん検診の受診率を上げるような取組みを期待しています。</p>

<p>委員 4</p>	<p>人は生涯何時までも「健康」でありたいと願っていることと思う。だが、いずれ老いが訪れ介護保険の支えが必要となり、時には罹病し治療費支出は健康保険等の支えが必要となる。一方高齢社会においてこれらの支出は市の財政負担増加となる。例えるとこの防波堤として、前述の支出負担を如何にして遠のかせるかが喫緊の課題である。当プロジェクトの取組とし、4つの柱を立て、かつ、その指標を健康寿命として掲げ、成果を確認しつつ推進している。また、東海大学等と連携し市の負担軽減と学生の研修機会等両者の益として推進。市役所内ではあるが健康測定機器を備え健康度確認・相談・指導を気軽な環境で行い、居住地近くの各公民館においては教室・講座を開催し参加者の拡大を図る等手法は良好である。さらに、地域の各種教室開催で生きがいづくりにより介護予防へ貢献していることに鑑み。今後の方向としてこのまま当プロジェクトを継続推進されたい。</p>
<p>委員 5</p>	<p>原案通りでお願いします。 「クルリン健康ポイント事業」のインセンティブの内容は市民に健康・体力づくりの取組を更に促すものと考えていいですね。</p>

リーディングプロジェクト4「未来につなげる子育て環境づくりプロジェクト」

委員 1	<p>子育て世代に魅力あるまちづくりもまた、転出超過者数の減少、という指標によって成果が見えやすいプロジェクトであり、一定の成果を上げていると思われる。</p> <p>子育ては、医療、福祉、教育、住宅など関連する施策の縦割りを排し、横割りですすめる必要があるが、それが十分に機能しているとはいえない。(外国つながりの子どもの支援を実際に行っている立場から、縦割りの弊害を感じている) 子育て世代包括支援センターの設置は確かに環境の充実だといえるが、子育て相談の窓口のワンストップ化はすすんでないとの記述もあり、ハードの整備だけでなく、ソフト面できめ細かい対応が必要だと考える。</p> <p>子育て世代が「働きやすい環境づくり」のためには保育所と学童保育(児童コミュニティクラブ)の充実が欠かせない。保育士不足を解消するのは、働いてみたいと思わせる、質の高い保育を展開する保育園経営である。量、質共にアップすることをめざしてほしい。</p> <p>ハード面の生活環境の整備は着実な推進が認められるが、中学校での給食の実施にはスピードが求められるのではないか。</p> <p>予算が必要な施策もあろうが、システム、しくみの構築によって可能になる縦割りの弊害の除去などもある。子育て世代に魅力的なまちづくりに本気で取り組む職員体制が必要ではないだろうか。</p>
委員 2	<p>発達相談の件数は年々、増えているが保護者の不安が少しでも早く解消できるように体制を強化して欲しい。</p> <p>保育士不足の問題も早急に対処して欲しい。</p> <p>市内の全中学校での給食実施は保護者にはありがたいと思いますが、量が多い(又は少ない)と感じたり、あたたかさ(保温状態)に問題があるようです。</p> <p>3つの柱による取組を今後も継続していただきたい。</p>
委員 3	<p>伊勢原市の未来を担う子どもたちを市民が安心して産み育てることができるような「サポート体制の充実」については、令和2年4月の「子育て世代包括支援センター」の開設によって子育て世代の市民にとって、妊娠・出産から就学までの継続的な支援に大きな展望が開かれたと感じています。また、一部機能面や相談体制等の課題はあるものの今後の支援体制のさらなる充実が期待できると考えています。また、就学前の子どもを抱える世代の「働きやすい環境づくり」については、幼児教育・保育施設の整備については、計画通り順調であり大変評価できますが、施設は整いながらも待機児童が解消されない理由の最大の原因である深刻な保育士不足への対応策が明確に示すことができない点が課題であると感じています。やはり、市独自の助成制度も含め、県内広くを視野に入れた人材確保の取組みが望まれます。「安全で魅力ある生活環境」については、厳しい財政状況にもかかわらず、全学校の普通教室へのエアコン設置は子どもたちの安全面や学習効果も含め、高く評価できます。今後は子どもたちにとって、より安心できる学校環境を整えるためにもトイレの改修及び食育の観点に立った中学校給食の推進を着実に進めていただきたい。全体的にこのプロジェクトは子育て世代にとっては、継続的で極めて大切な支援であると評価できます。</p>

<p>委員 4</p>	<p>未来を託す子供の妊娠、出産、育児、幼稚園、小学校及び中学校までの子育ての多くのステップについて、担当部門を定め個々具体的に事業を推進しているところであるが、当プロジェクトは担当部門を横断的にとらえ、3本の柱に束ね、その指標を「子育て世代の転出超過者数」の動向により成果を確認しつつ推進している。その結果、初期設定値より大幅に減少しプロジェクトの効果が伺える。「子育て世代包括支援センター」を開設し、様々な環境にある子育て事象に対応し子育て当事者を助勢し安心感を与えている。また、認定こども園の整備、放課後子供教室の増設、小中学校の教育施設及び通学路の整備を行うなど、安全安心して子育てが出来る伊勢原市構築に向かっていくことを知り、当プロジェクトの取組内容や手法が正しく機能していることを理解した。このことから今後も引続き継続的に推進されたい。ただ、心残りは、子供会の減少である。子供達や親達達の交流・懇親の機会がなくなり、さらに、情報交換もなくなることは子供・親の孤立が多発するのではないかと危惧する。働く親が多数を占め、子供会役員を拒否又は退会するための解散のようであるが、県・市は情報伝達のため旧子供会に担当者を決め資料配布など辛うじて情報伝達をしている状態である。前途多難である。早急な対策を望む。</p>
<p>委員 5</p>	<p>原案通りでお願いします。</p> <p>確認ですが、中学校給食は喫食率が65%と利用度が高いことと、利用者と家族の声から満足度の高い給食と考えていいですか。</p>